

「緊急地震速報」を見聞きしたら…

「緊急地震速報」は、地震によって大きな被害が出ると予想される地域を対象に、揺れが始まる前にテレビ・ラジオ・防災行政無線や携帯電話(対応機種)などからみなさんに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。


周囲の状況に応じて、あわてずに身の安全を確保しましょう		
屋内では… ●頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる。 ●あわてて外へ飛び出さない。 ●揺れが収まってから落ち着いて消火する。	屋外では… ●ブロック塀の倒壊等に注意する。 ●看板や割れたガラスの落下に注意し、丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難する。	人が大勢いる施設では… ●施設の係員の指示に従う。 ●落ち着いて行動する。 ●あわてて走り出さない。
自動車運転中は… ●あわててブレーキをかけない。 ●ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止する。	鉄道やバスでは… ●つり革や手すりにしっかりつかまる。 エレベーター内にいるときには… ●最寄りの階で停止させ、すぐに降りる。	山やがけ付近では… ●落石や、がけ崩れに注意する。

地震が起きたとき、とるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、土砂災害の危険が予測される地域は、揺れを感じたらすぐに避難してください。


地震発生! 自分の命は自分で守る

- 「頭を保護する」「大きな家具から離れる」「丈夫な机の下に隠れる」など、落ち着いて自分の身を守る。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 土砂災害の危険が予測される区域にいる場合はすぐ避難する。




1～5分 家族を守る

- 揺れが収まってから行動する。
- 家族の安全を確認する。
- 火の元を確認・初期消火。
- 足をケガしないように靴をはく。
- 非常持ち出し品等を手元に用意する。
- 余震に注意。




5～10分 地域を守る

- 隣近所の安全を確認。
- 安全な場所に移動してから、防災無線やラジオなどで情報を確認する。
- 電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。
※復旧時の火災・事故を防ぐため
- 家屋倒壊などのおそれがあれば避難する。



10分～数時間後 避難生活 助け合いの心で…

- 協力して消火・救出活動。
- 水・食料は備蓄品でまかなう。
- 災害情報、被害情報の収集。
- 壊れた家には入らない。
- 引き続き余震に注意。
- 避難所では集団生活のルールを守る。



今すぐできる地震対策

地震によって建物が破壊しない場合でも、大きな家具の転倒やガラスの飛散などにより、ケガをしたり、閉じ込められたりするおそれがあるので、今すぐ地震対策をしましょう。

収納に工夫を

- タンスや本棚などにものを入れる場合は、重いものは下に、軽いものは上に収納するようにします。
- 本棚は隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間を作らないようにしましょう。

照明器具の補強を

- 吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めておきましょう。

置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に転倒を防止するための板などを入れ、壁にもたれ気味にします。
- 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにしましょう。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫を。

地震のときに家具などが就寝部分に倒れたり、避難経路をふさぐ位置に配置されていませんか?

ガラスの飛散防止を

- 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。

耐震金具を利用しよう

転倒防止金具
壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、天井などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。

重ね留め用金具
重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぎます。

扉・引き出し開放防止金具
地震発生時に、扉・引き出しが開かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふきんを敷いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止枠をつけると安心です。

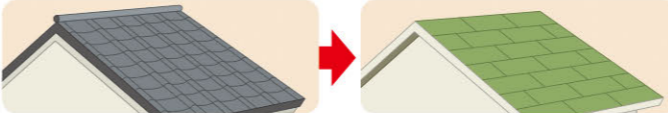
手近な取り出しやすい所に運動靴などを用意しておくと、災害時の足のケガを防止できます。

建物の被害を軽減する

建物の耐震性を確認するために、まず耐震診断を受けましょう。安全でないと診断された場合は、適切な耐震改修を行うことで安全性が確保できます。専門家に相談してわが家にもっとも適した工事方法を選び、耐震改修を行いましょう。なお、多可町では戸建て住宅などの耐震工法によっては費用の一部助成があります。詳しくは『多可町住まいの耐震化促進事業(定住推進課 ☎32-4776)』までお問い合わせください。

軽い材料の屋根に変えることで耐震性を向上


軽量化については、耐震壁などの上部構造各部の補強とあわせ、全体で考えましょう。



基礎の補強で建物の性能UP

無筋コンクリートは耐震性に乏しく、崩壊しやすいので、新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせましょう。

ひびの入った基礎は樹脂などを注入して補強

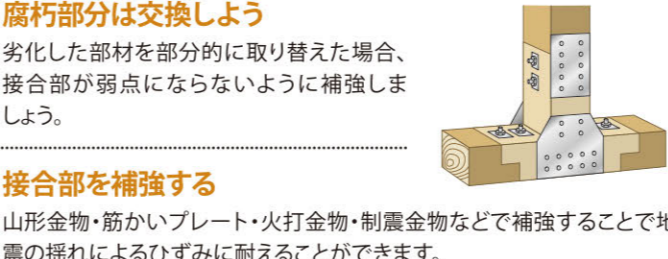


腐朽部分は交換しよう

劣化した部材を部分的に取り替えた場合、接合部が弱点にならないように補強しましょう。

接合部を補強する

山形金物・筋かいプレート・火打金物・制震金物などで補強することで地震の揺れによるひずみに耐えることができます。

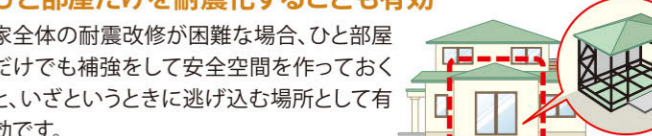


壁を補強する

耐力壁(※)の量を増やすと、建物は丈夫になります。壁の配置にかたよがりがあると、地震で建物がねじれるおそれがあります。壁の少ない側に耐力壁を設ける補強をして、建物のバランスを良くします。

ひと部屋だけを耐震化することも有効

家全体の耐震改修が困難な場合、ひと部屋だけでも補強をして安全空間を作っておくと、いざというときに逃げ込む場所として有効です。



※耐力壁とは…構造用合板などを張り、想定される地震力に抵抗できる壁のこと(筋かいの入った壁も含む)